

SDGsを中心とした地域探究「津南・妻有学」と国際交流

実施校:新潟県立津南中等教育学校 教諭名:松井市子

対象	4学年	単元名
科目	総合的な探究の時間	津南・妻有学
時間	38時間	目標
参考資料	アイデアブック SDGsカードゲーム「X」	

期待できる学習効果

- 1 海外の学生との交流を通して、言語や文化の違いを理解し、自己表現する能力を高めることができる
- 2 ビジネスプランを考える過程で、他者と協調する態度や発想力、情報収集・整理力を高めることができる

授業内容

第1フェーズ(2コマ): SDGsカードゲーム「X(クロス)」を使ってSDGsに慣れ親しむ

- ・Think the Earthから寄贈してもらった「アイデアブック」を使い、SDGsの基本理念を学習する。
- ・金沢工業大学がHPで公開している「クロス」を使い、トレードオフ状態を既存のリソースで解決する方法についてカードゲームで体感する。

第2フェーズ(2コマ): アイデアブックをグループ毎に翻訳する ※プロジェクト参加

英語表現Ⅰの授業でグループ毎に翻訳し、グループ写真を撮ってwordファイルでまとめる。

第3フェーズ(3日間18コマ): 在日留学生とSDGsを使って地域課題についてディスカッションをする

- ・コミュニケーション英語Ⅰの授業で事前学習(スカイプ)する。
- ・グループ毎に留学生(10名)の出身国の地域課題をSDGsに落とし込み、日本人としてどう向き合うべきかグループ毎に発表する。(第2フェーズで作成したwordファイルを会場に掲示)

第4フェーズ(6コマ): ビジネスプランの提案をする

- ・地域住民にビジネスプランを発表し、フィードバックをもらう。
- ・SDGs関連を中心に各種コンテストに応募する。

第5フェーズ(2コマ): 文化祭に向けた準備

第2フェーズで作成したwordファイルと寄贈された本、ビジネスプランを地域住民にも取り組みが伝わるように会場に掲示する。

第6フェーズ(5コマ): 海外研修先の学校とSDGsをテーマに交流授業を展開する

- ・地域課題を海外で発表できるよう英語表現Ⅰの授業で教材を作成する。
- ・(水や雪について)両国の地域課題を発表し合う。

第7フェーズ(3コマ): プロジェクトやビジネスプランを振り返る

- ・英語表現Ⅰの授業でプロジェクトの振り返りを行い、次年度のアクションプランを考える。
- ・ビジネスプランを振り返り、次年度のアクションプランを考える。

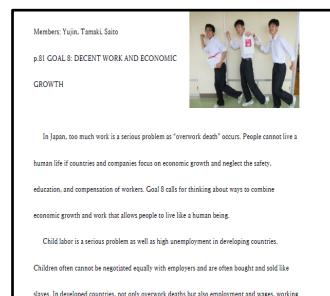
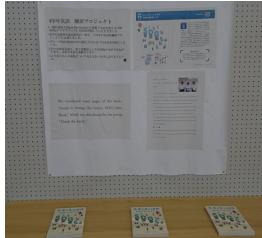
SDGsを中心とした地域探究「津南・妻有学」と国際交流

実施校:新潟県立津南中等教育学校 教論名:松井市子

授業の様子



在日留学生との事前学習(スカイプ)と交流活動(寸劇やディスカッション)の様子



海外研修の交流授業の様子

アイデアブック翻訳プロジェクトの様子

子どもたちの反応・感想

総合的な探究の時間「津南・妻有学」では、地域課題を解決するための探究活動を展開する。4学年は地域課題解決に向けたビジネスプランを作成することが一つの目標である。

第1フェーズでは、アイデアブックを使ったりカードゲームを行ったりした。アイデアブックは読みやすい構成で、親しみを感じている生徒が多かった。SDGs17の目標が差し込んでおり、そのシートに英語を書き込んだ。SDGsカードゲーム「X」は初級編と発展編に取り組んだ。英語版は次年度他学年と合同で取り組む。

第2フェーズでは、ビジネスプランのグループ毎に訳したいゴールを選択し、グループ写真を撮ってwordファイルにまとめた。熱心に翻訳に取り組み、ALTのチェックも受けて満足そうだった。

第3フェーズでは、英語を使ったディスカッションに取り組む。諸外国の地域課題に興味を示し、地球規模で様々な問題に向き合えたことは有意義であった。

第4・5・6フェーズでは、海外研修モードの中、ビジネスプラン発表や文化祭準備に取り組み、SDGs関連のコンテストにも応募するなど、発信することを意識した期間である。

第7フェーズは、新型コロナウイルスのせいで延期となつたが、新年度に実施予定である。

SDGsを中心とした総合的な探究を展開できたことは、より広く深く地域課題と向き合うことにつながつたので、次年度は地域との関連を増やし、学校全体や教科横断的に取り組みを拡大して展開したい。